

ひろば

vol. 17

2008・春



特集テーマ

介護保険で利用できる高齢者福祉施設-第2弾-

～地域密着型サービスについて～

認知症高齢者や一人暮らしの高齢者が増加しています。特に、認知症高齢者は住む環境が変わったり、長年培ってきた人間関係が断絶してしまうと状態が悪化することが指摘されています。

そこでこうした方々ができる限り住み慣れた地域で、地域の実情に合った多様で柔軟な介護サービスが受けられるよう、平成18年度より「地域密着型サービス」が創設されました。

前号の16号では栄区にある公的な高齢者施設、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」と「介護老人保健施設」について取り上げましたが、今回は引き続き介護保険で利用できる栄区の高齢者施設の中から「地域密着型サービス」の二つのタイプ、すなわち「①小規模多機能型居宅介護施設」と「②認知症対応型共同生活介護施設（グループホーム）」を取材、紹介いたします。

「小規模多機能型居宅介護施設」（定員25人未満）では住み慣れた地域で「通いを中心に、訪問、泊まり」を組み合わせたサービスがなじみのあるスタッフにより提供されます。一方、「認知症対応型共同生活介護施設」では、認知症高齢者が家庭的な雰囲気の中、5～9人で共同生活を送りながら日常生活の介護を受けます。居室、居間、食堂、浴室などを備え、利用者がそれぞれ役割をもって家事をするなどして、認知症の症状の進行を緩和し、安心して日常生活が送れることをめざしています。

いずれの「地域密着型サービス」でも市町村が指定権限をもち、ここ横浜市においては介護認定を受けた市民のみの利用が可能という点が、「介護老人福祉施設」や「介護老人保健施設」と大きく違います。

① 小規模多機能型居宅介護施設



住み慣れた地域で「通いを中心に、訪問、泊まり」を組み合わせたサービスが提供されます。

「晴」 外観からは普通の住宅である建物。デイサービス（以下「通い」）の人達が送迎のワゴン車から降りて入っていきます。環状4号線の光明寺バス停から直ぐで、ここが今年2月から始まったばかりの「社会福祉法人杜の会」が運営している「晴」です。つい1ヶ月前まで8年間「デイサービス」を行っていて、この2月より対応幅の広い小規模に切り替えました。

介護職歴10年、所長の三浦孝紀氏に話を伺いました。「通い」は10時～16時だが事情によって早くからも受ける事もあります。現在15名と契約しており、1日の定員は「通い」12名、「泊まり」4名まで。それを職員11人、看護師4人、調理員2名、運転手1名で支えています。

介護度4の人が多く、要支援の人は受けていません。ご家庭との間を密にするため、できるだけ近くの人優先で受けたいが、今は遠方からも受けています。

間取りは、大部屋のダイニングキッチンで、台所も見える所にあり、自宅と変わらない雰囲気か

出ています。寝室は仕切り戸を引き個室に出来ますが、利用者さんの希望によっては開けて利用します。勤続年数の長い職員が多く、食事の美味しい事もPRの一つです。住み慣れた地域で「在宅」を続ける事の大切さを力強く語られる三浦さんと話していると、自分の母親をお願いすれば良かったなあと思えてきます。

職員さん達が親身になって話し相手をして、夕方の帰宅があったという間に来ようとするのと、取材をしている私達も暖かくなりました。



◆連絡先：栄区上郷町 969-1

045-896-0668

◆HP : <http://www.morinokai.or.jp>

「かいん」 元酒屋の店舗を改装した小規模多機能型居宅介護施設「かりん」は、小菅ヶ谷3丁目の住宅街にあります。

訪れた日は、ちょうど昼食が終わって、10人程度の皆さんが床暖房でポカポカのリビングでテーブルを囲み、楽しげに談笑しているところでした。とても家庭的で、和やかな雰囲気を感しました。

「現在の登録者数は21人、地域密着型の施設なので、ご利用者は近隣にお住まいの方が多いですね。一人ひとりには、それぞれの自分らしい生活があります。自分の家で心豊かに過ごしたいと思っている方が、その希望を遂げられるよう、寄り添って支援することを第一に考えています。介護度の重い人から比較的軽い人まで

を対象に『通い』中心の対応をしています。

食事作りやおやつ作りの手伝いや、一人ひとりに合わせたレクリエーション、散歩、子供達との触れ合いなどを通して、利用者にとって第2の家といえるようなサービスを心掛けています」と、福祉関連の仕事一筋30年という管理者の後藤京子さんが熱っぽく語ってくれました。



◆連絡先：栄区小菅ヶ谷 3-62-2

045-895-6006

◆HP : <http://www.h2.dion.ne.jp/~kurumini>

その他のサービス事業所

事業所名	所在地	電話番号
小規模多機能型居宅介護 くるみ	栄区本郷台4-28-12	045-893-7517



② 認知症対応型共同生活介護施設（グループホーム）

認知症高齢者が家庭的な雰囲気の中、少人数での共同生活を送りながら日常生活の介護を受けます。

「のぞみの家・上郷」 名刹光明寺に程近い住宅地にあり、屋内からは家並みや山が望める開放感のある真新しい建物です。

訪問した日、明るい日差しが差し込むリビングで、皆さんテレビを観たり、職員さんとおしゃべりしたり、唄を歌ったり、笑い声が絶えない明るい雰囲気でした。

現在、16人が入居されているとのこと。施設長の鈴木正巳さんにお話を伺いました。

施設では、入居された方が穏やかに安らぎ・語り・楽しみながら暮らせるように気配りし、まさに家庭と同じ雰囲気で行生活できるように心がけているとのこと。一緒に食事を作ることも

その一環。庭では野菜も作っているそうです。「食べきれないくらいできるんですよ」と鈴木さん。グループホームは認知症の方を対象とした施設なので、「話を聞くこと。否定しないことが大切」とのこと。入居者に対する丁寧な対応がとても印象的でした。



◆連絡先：栄区上郷町 972-5
045-306-5512

「ちいさな手横浜さかえ」 氷雨のふる寒い日、栄区長沼町の住宅街に建つグループホーム「ちいさな手横浜さかえ」を訪問しました。

人目をひく洋風の建物内に一歩足を踏み入ると、床暖房の温かいフロアが私たちを迎えてくれました。クリーム色で統一された室内に、思い思いに椅子に座ってテレビを観ていたり、お昼寝中の方もいたり、なんとも家庭的で和やかな雰囲気です。

見渡すとフロアの一角で洗濯物を干している方もいます。

ホーム長の高橋健作さん、介護主任渡邊けい子さんにお話を伺いました。「2年前に建ったばかりですが、満室です。ご覧のとおり入居者の方にはできることはやっています。皆

さん仲が良いし、職員とのコミュニケーションもよくとれていると思います。」天気の良い日は近くの公園まで散歩をしたり買い物にも行くそうです。「もっと外出の機会を広げたい」と語る高橋さん。個室もリビングも廊下



さえもゆったりとした広さで、羨ましいほど素敵なグループホームでした。

◆連絡先：栄区長沼町 478-1
045-869-2929

その他のサービス事業所

事業所名	所在地	電話番号
グループホーム すみれそう	栄区小菅ヶ谷3-62-2	045-895-5001
グループホーム クロスハート田谷・栄	栄区田谷町1249	045-858-3330
グループホーム さくら園	栄区金井町字内田1600	045-858-3038
ゼロケア長沼町センター	栄区長沼町836-4	045-897-7700
グループホーム 湘南かさま	栄区笠間3-20-27	045-893-1770
グループホーム ひかり横浜本郷台	栄区飯島町2310	045-894-8869

本郷中央地区支えあい連絡会全体会報告

開催日時 2月8日(金) 14時～

於: 桂台地域ケアプラザ多目的ホール

平成19年度第2回の会合が、寒さの続く2月8日にケアプラザで開催された。

出席者は、自治会関係者11名、地域福祉分科会10名、ボランティア分科会9名、行政7名、他7名、合計44名。先ず、地区社協の亀澤氏から「地区福祉増進協働事業計画」の説明が行われた。これは自治会を訪問しテーマを7つに纏めたもので、①福祉関連組織の有無 ②委嘱委員との連携 ③福祉の課題 ④災害対策 ⑤要援護者の見守り ⑥バス運行 ⑦防犯対策に分類されている。

引き続き、5つの分科会から活動報告がされた。嬉しいのは「子育て支援分科会」から、最近2人目3人目を出産されたママが増えて来ていると報告された事。悲しいのは「ボランティア分科会」から、講座に応募する人が減った

との報告。これは団塊の世代が地域に戻って来ると言われながら、次代を担うボランティアが増えない、高齢化が進むと言う傾向に歯止めが掛からない事を示している。

更に、民生委員の欠員が多く困っているとの報告もあった。また、区役所から、「地域見守り活動推進事業の方向性」の説明があった。自治会関係者から突っ込んだ意見が出され、「定期訪問」と「ネットワーク」の関係が議論されたが、地域による差は容認するとの説明がされた。補助金の支給は継続交付を廃止する旨の説明が区よりあった。来年度に関しては新たな形での支援をしていくとの事。新たに、「災害時の要援護者支援」を活動に取り入れて欲しい旨の要請があった。

上郷西地区支えあいネットワーク連絡会全体会報告

開催日時 3月21日(金) 14時～

於: 桂台地域ケアプラザ多目的ホール

平成19年度第2回の会合が3月21日桂台ケアプラザにて35名が出席して開催された。

今回は新しく着任された方が多く出席されていて、新鮮味のある報告が出された。

先ず、5つの分科会から活動報告が行われた。主な報告は、◆「地域福祉分科会」では来年度活動目標を一段階進めて「多彩に交流するまちづくり」にする事。ハンドブックによる高齢者への活動紹介を完了し、青少年による地域活動の「実態調査」を開始する。◆「子育て支援分科会」から、新サロン「ママとも広場アロハ！」が紹介された。次に、◆犬山町会福祉部から「ワンコイン・サロン」を開催してきた状況が報告された。◆区役所

からは、補助金の継続交付は廃止する旨の説明があった。それに対して、理解はするが突然なくなると活動が混乱する事も認識して欲しいとの反論が出された。これに対しては、新規事業を企画し補助金を受け等の方法か、ケアプラザの支援を受けられないか考えてみて欲しい、との提案があった。更に、見守り活動は「災害時における要援護者支援」に重きを置いたものにシフトしていくので、地域でも考えて欲しい。この会の出席者は、自治会町内会、公的団体、ボランティア団体、行政から幅広く担当者が集まった。地域の団体が抱える問題を関係者一同の前で明確化し、行政の施策でどう解決できるかを議論した。地域福祉全体が見渡せる会となった。

編集後記

- 「春よ来い」と唄ったら黄砂と花粉が飛んできた。さくら吹雪に浮かれる春が待ち遠しい。(K.I)
- 10人10色の老い方があり、周囲は色々とサービスの内容を考える。A+B+CであれB+Cであれ、答えはどれも「幸せ」になるようお願いしたい(R.S)
- 今回訪問させていただいた事業所の皆さんの、暖かい思いにふれる事が出来ました。(T.K)

- 小規模多機能を取材。何れも地域福祉に情熱を燃やす人達、驚く程純粋で情熱的。未だ頭の中に計算尺を持つ私には異境の感。この人達が羨ましい。(J.N)
- 今回の取材で介護保険制度と地域福祉のあり方、急速な高齢化と担い手の問題、自分の将来に不安を感じた(T.S)
- 経営環境が厳しい福祉事業、福祉への熱き心で誠心誠意打ち込んでいる関係者の皆さんの姿に心を打たれました(T.U)

★支えあい連絡会ホームページ <http://www.katuradai.com/>

★編集・制作/横浜市桂台地域支えあい連絡会広報分科会 お問い合わせ/TEL045(897)1111(桂台地域ケアプラザ 楠原・石黒)